

3 章

港区内の地域別に見た

定住人口へのコロナ禍による影響



3 章

港区内の地域別に見た定住人口への コロナ禍による影響

1

港区内5地区別に見た定住人口増減数及び転出入動向

(1) 分析結果の概要

- ・港区内は、「芝地区」「麻布地区」「赤坂地区」「高輪地区」「芝浦港南地区」からなる5つの地区で分けられている。
- ・港区内5地区の定住人口は近年継続的に増加していたが、コロナ禍の影響を受けた令和2（2020）年10月は増加数が減少し、麻布地区、高輪地区は前年比で減少している。国籍別では外国人の減少率が大きく、日本人はかろうじて増加を維持している。
- ・0～6歳で、麻布地区、赤坂地区、芝浦港南地区で令和2（2020）年10月の減少数がそれ以前と比較して大きくなっている。
- ・30～39歳で、全地区で令和2（2020）年10月がそれ以前と比較して大きく減少しており、特に麻布地区、高輪地区で減少幅が拡大している。
- ・65～74歳は港区では減少傾向が強い年齢階層であるが、令和2（2020）年10月は減少傾向が弱まっている。

図32 港区5地区

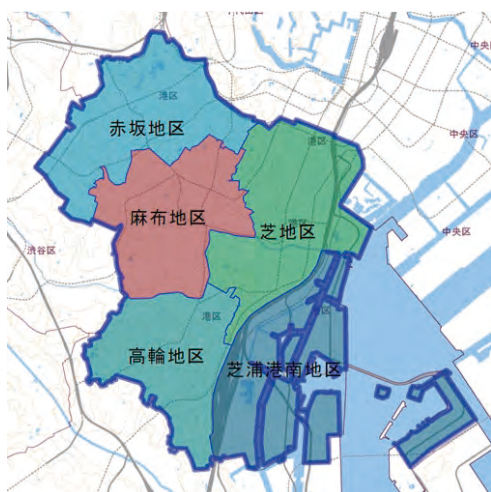


表3 地区別人口の概要

		(人)				
		芝	麻布	赤坂	高輪	芝浦 港南
2019年 10月	日本人	38,513	54,028	34,567	59,275	53,297
	外国人	2,962	7,777	3,115	2,970	3,611
	総数	41,475	61,805	37,682	62,245	56,908
2020年 10月	日本人	38,890	54,330	34,814	59,265	53,626
	外国人	2,781	7,074	2,916	2,672	3,525
	総数	41,671	61,404	37,730	61,937	57,151
増減率	日本人	1.0%	0.6%	0.7%	0.0%	0.6%
	外国人	-6.1%	-9.0%	-6.4%	-10.0%	-2.4%
	総数	0.5%	-0.6%	0.1%	-0.5%	0.4%

出典：港区「住民基本台帳」

(2) 分析結果の詳細

ア 地区別定住人口の動向（総数及び国籍別）

- ・コロナ禍の影響を受けた令和2（2020）年10月の対前年同月比増減数を区内5地区で比較すると、コロナ禍以前の5年間は各地区とも増加傾向であったが、令和2年10月はすべての地区で増加数が大きく減少している。
- ・中でも麻布地区、高輪地区の落ち込みが大きく、対前年同月比で減少している。
- ・日本人は令和2（2020）年10月の対前年同月比で高輪地区が唯一減少しており、コロナ禍以前からの落ち込みも最も大きくなっている。他地区は増加しているものの増加数は減少している。
- ・外国人は令和2（2020）年10月の対前年同月比ですべての地区で減少しており、総人口と比較して麻布地区の減少数が他地区と比較して突出している。

図33 総人口（対前年同月比増減数、各年10月1日時点）

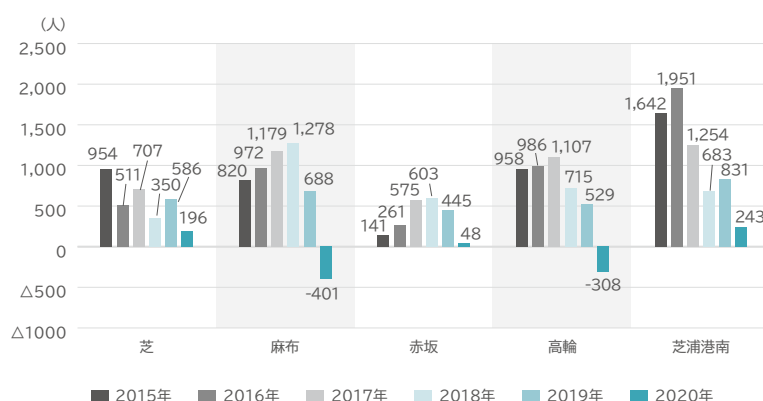


図34 日本人人口（対前年同月比増減数、各年10月1日時点）

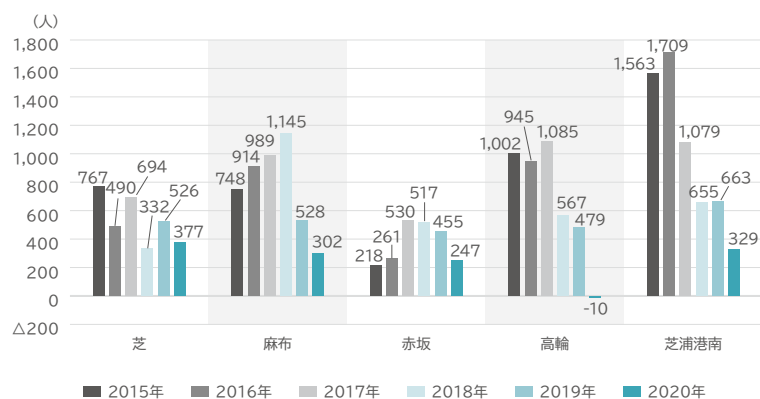
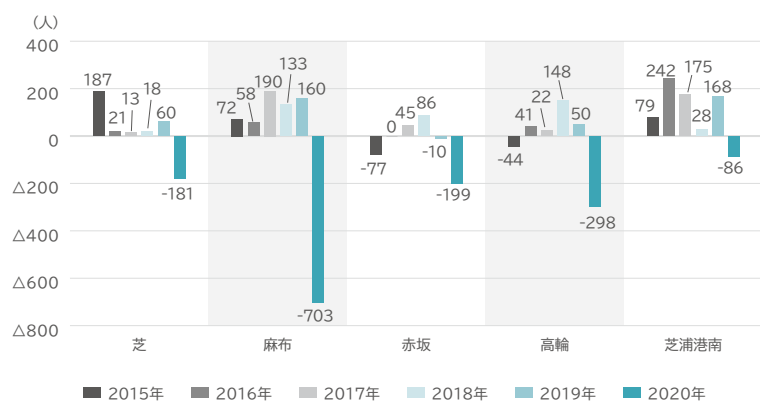


図35 外国人人口（対前年同月比増減数、各年10月1日時点）



出典：港区「住民基本台帳」

イ 地区別定住人口の動向（年齢別、0～12歳）

- ・対前年同月比増減数について、0～6歳では麻布地区、赤坂地区で令和2（2020）年10月の減少数がそれ以前と比較して大きくなっている。芝浦港南地区は、平成30（2018）年から減少となっている。
- ・7～12歳では全地区とも増加傾向にあるが、麻布地区、高輪地区で令和2（2020）年10月の増加数がそれ以前と比較して大きく減少している。

図36 0～6歳人口（対前年同月比増減数、各年10月1日時点）

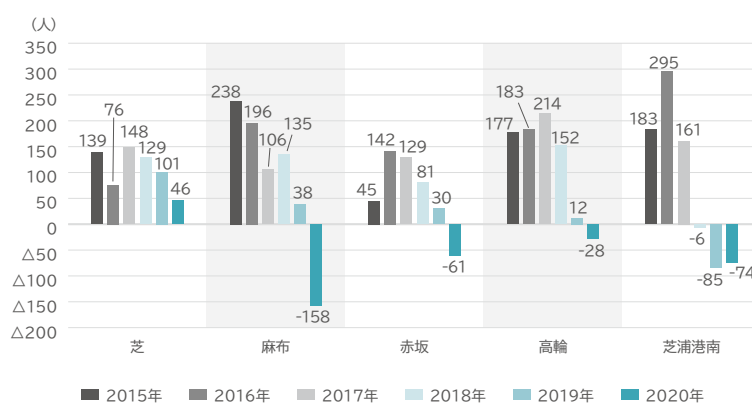
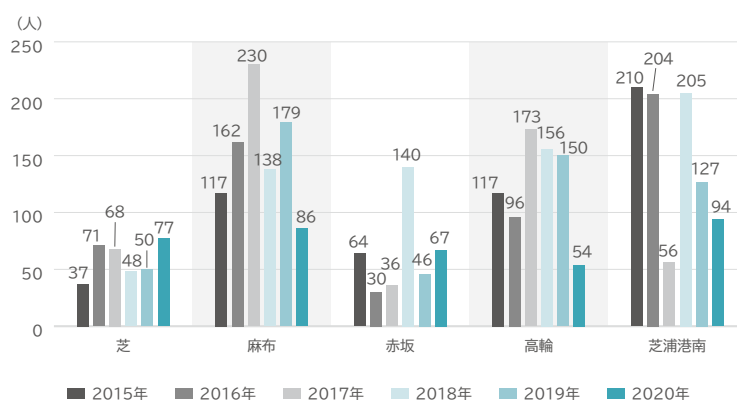


図37 7～12歳人口（対前年同月比増減数、各年10月1日時点）



出典：港区「住民基本台帳」

ウ 地区別定住人口の動向（年齢別、20～49歳）

- ・20～29歳も全地区で令和2（2020）年10月がそれ以前と比較して減少しており、麻布地区、芝浦港南地区、高輪地区で特に減少幅が大きくなっている。
- ・対前年同月比増減数について、30～39歳で令和2（2020）年10月がそれ以前と比較して大きく減少しており、特に麻布地区、高輪地区で減少幅が拡大している。
- ・40～49歳では赤坂地区以外で減少しており、芝浦港南地区で特に大きくなっている。

図38 20～29歳人口（対前年同月比増減数、各年10月1日時点）

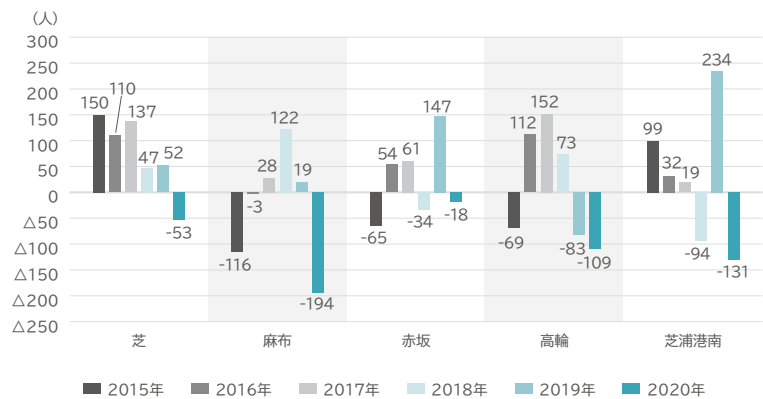


図39 30～39歳人口（対前年同月比増減数、各年10月1日時点）

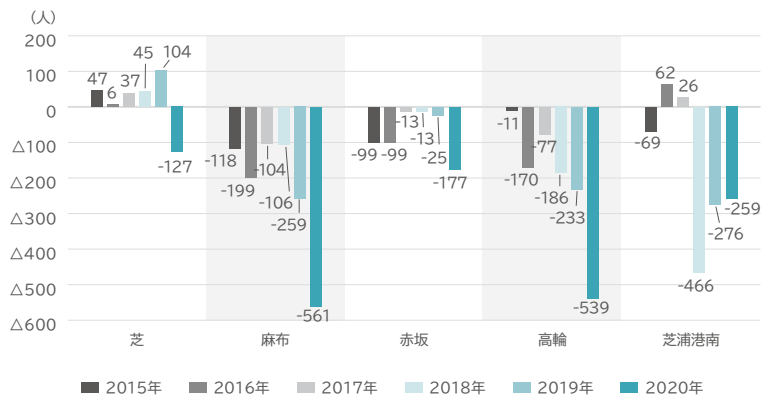
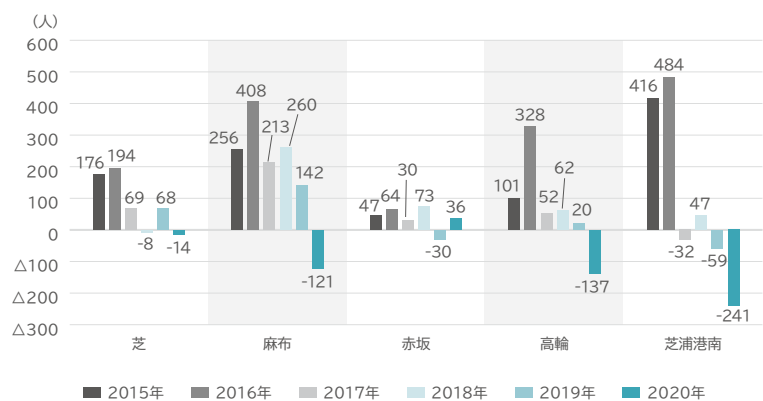


図40 40～49歳人口（対前年同月比増減数、各年10月1日時点）



出典：港区「住民基本台帳」

エ 地区別定住人口の動向（年齢別、65歳以上）

- ・65～74歳は、港区では減少傾向が強い年齢階層であるが、令和2（2020）年10月はそれ以前と比較して減少幅が縮小しており、高輪地区、芝浦港南地区では増加している。
- ・75歳以上においては高輪地区を除いた地区で増加傾向にあるが、いずれの地区においても増加数が減。

図41 65～74歳人口（対前年同月比増減数、各年10月1日時点）

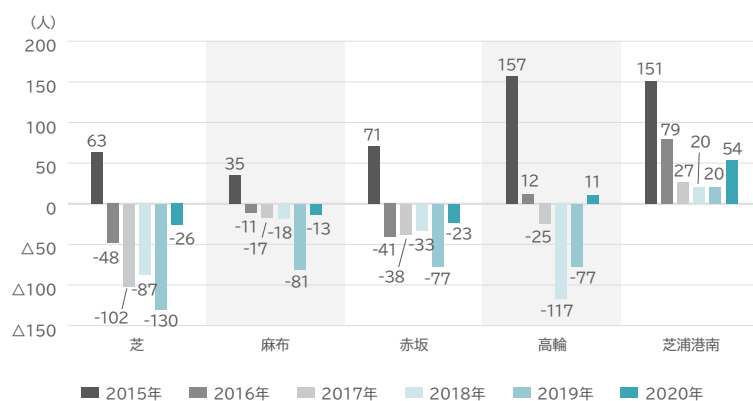
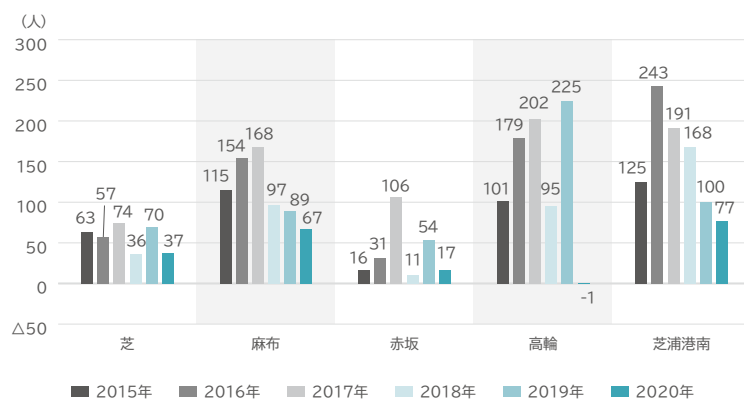


図42 75歳以上人口（対前年同月比増減数、各年10月1日時点）



出典：港区「住民基本台帳」



2 | 港区の相手先別転出入動向

(1) 区全体の傾向

- ・転出は日本人、外国人とも国外が減少、日本人では国内は増加傾向にあり、近隣3県、1都3県以外の国内への転出が増加している。
- ・転入は日本人では1都3県以外の国内から、外国人では国外からが最も大きく減少している。

ア 相手先地域別転出数の変化

- ・外国人では東京都への転出者数が大きく減少している。
- ・日本人では国外への転出が前年比約-34%と大きく減少している一方、国内は増加しており近隣3県の増加率が高い。

図43 相手先地域別転出数 (外国人)

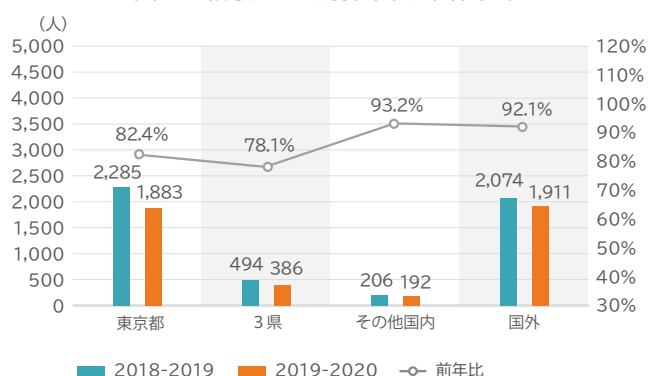
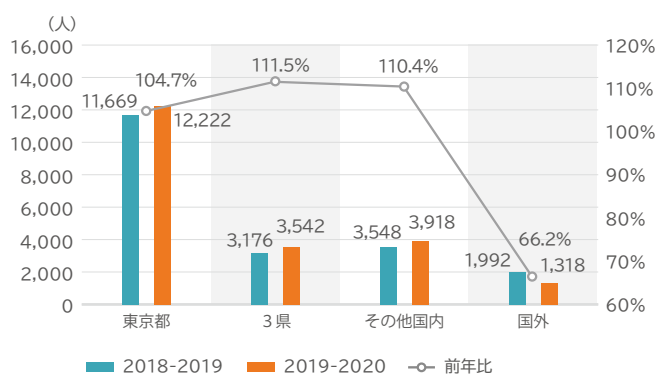


図44 相手先地域別転出数 (日本人)



出典：港区「住民基本台帳」

イ 相手先地域別転入数の変化（国外及び都道府県）

- ・外国人では国外からの転入が約-54%と大きく減少している。
- ・日本人では1都3県以外の国内からの転入が最も大きく減少している。

図45 相手先地域別転入数（外国人）

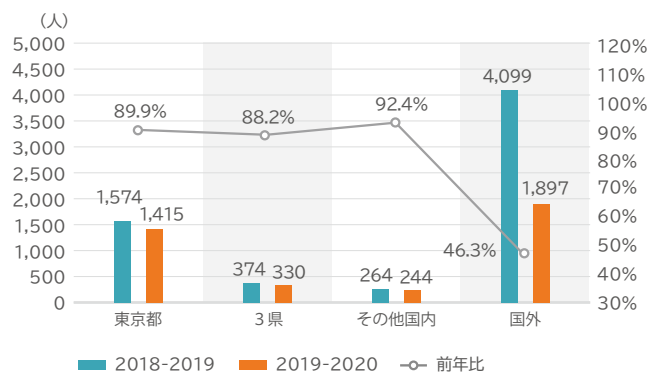
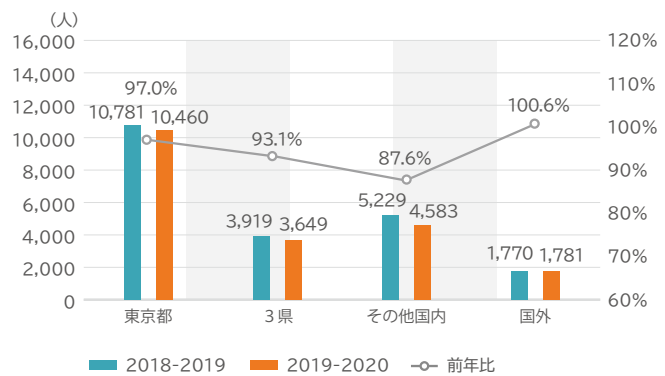


図46 相手先地域別転入数（日本人）



出典：港区「住民基本台帳」

(2) 港区内5地区別の傾向

- ・転出、転入とも相手先は東京都が多くを占めている。都内への転出の増加は芝浦港南地区が最も多く、都内からの転入の減少は芝地区が最も多い。
- ・国内では、1都3県以外の地域からの転入が最も多く減少しているが、赤坂地区はあまり減少していない。
- ・都内との転出入はどちらも9割以上が特別区内との間で発生しており、さらにその3割前後を都心4区(千代田区、中央区、渋谷区、新宿区)が占めている。
- ・都心区との転出入はいずれも麻布地区が最も多いが、転入において、他4地区が減少する中で芝浦港南地区は増加している。

ア 相手先地域別転出状況

都道府県別

- ・出入国に一定の制限がかけられているため、国外への転出者数はすべての地区で減少しているが、特に麻布地区で大きく減少している。
- ・国内では東京都への転出が最も多く、実数では麻布地区からの転出が多いが、転出の増加数は芝浦港南地区が最も多い。
- ・1都3県以外の地域への転出者数の増加は麻布地区からが最も多く、赤坂地区が最も少ない。

図47 東京都

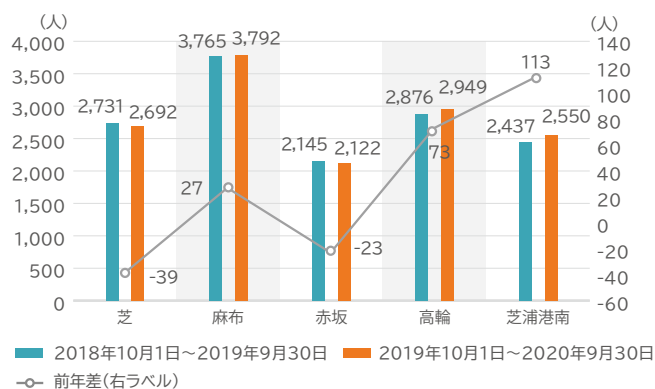


図48 3県(千葉県、埼玉県、神奈川県)

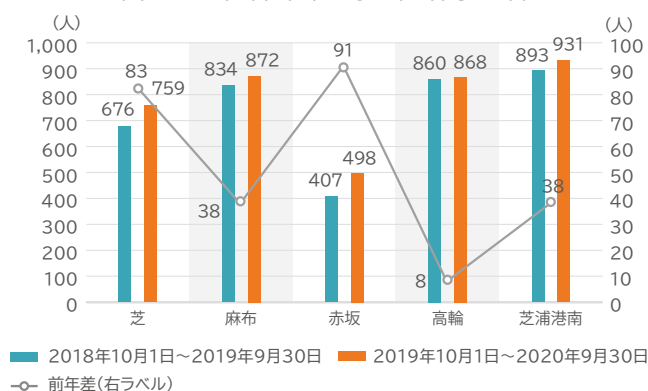


図49 その他国内

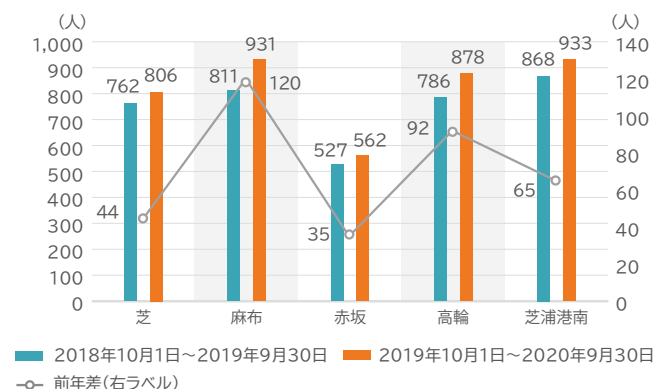
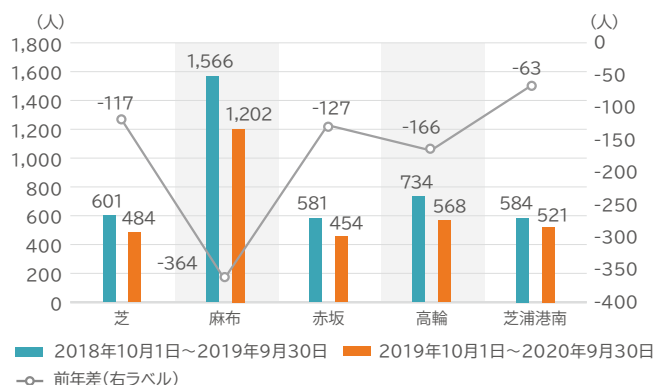


図50 国外



出典: 港区「住民基本台帳」

東京都内地域別

- ・都内への転出者のほとんどは特別区内に転出しており、特別区外（多摩・島しょ）への転出は1割に満たない。
- ・特別区内では、都心4区（千代田区、中央区、渋谷区、新宿区）で特別区への転出全体の3割程度を占めている。
- ・都心区への転出は麻布地区からが多い。

図51 都心区

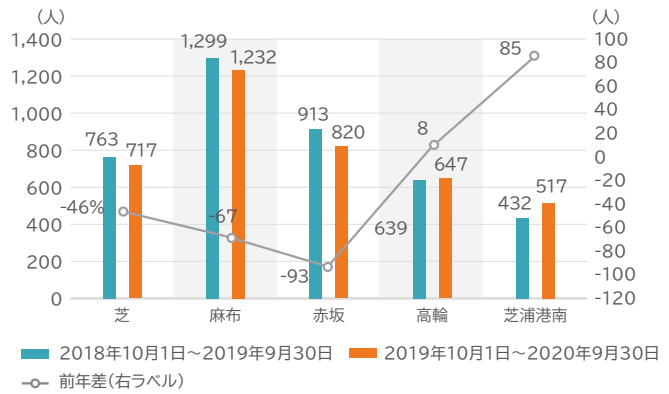


図52 その他特別区

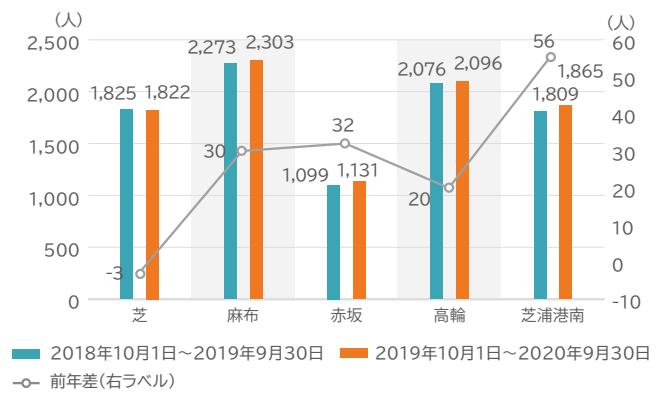
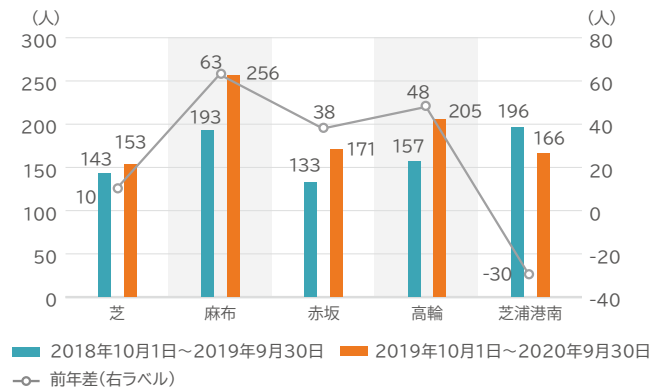


図53 特別区外



出典：港区「住民基本台帳」

イ 相手先地域別転入状況

都道府県別

- ・出入国に一定の制限がかかっているため、国外からの転入者数はすべての地区で減少しているが、特に麻布地区で大きく減少している。
- ・国内では、東京都からの転入が最も多く、芝地区で最も大きく減少している。
- ・国内では、1都3県以外の地域からの転入が最も多く減少しているが、赤坂地区はあまり減少していない。

図54 東京都

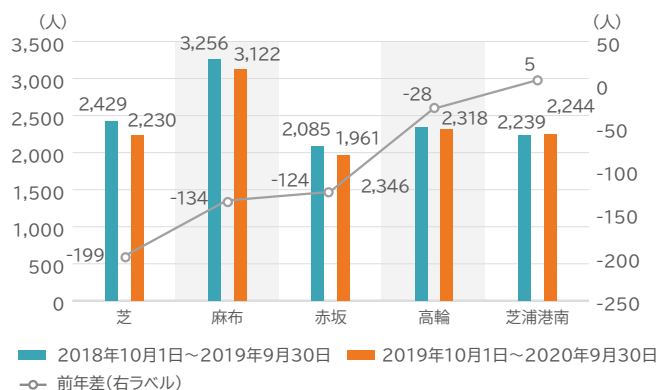


図55 3県(千葉県、埼玉県、神奈川県)

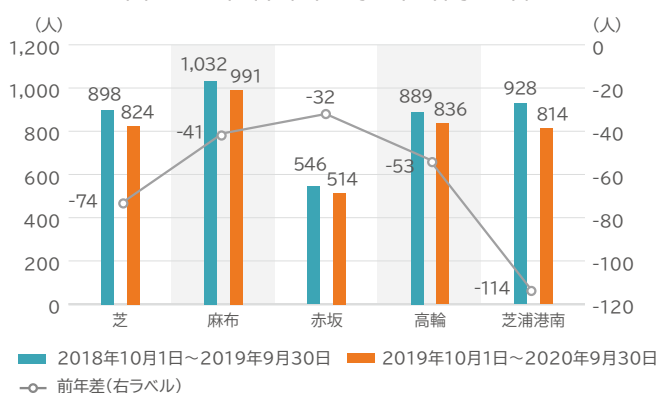


図56 その他国内

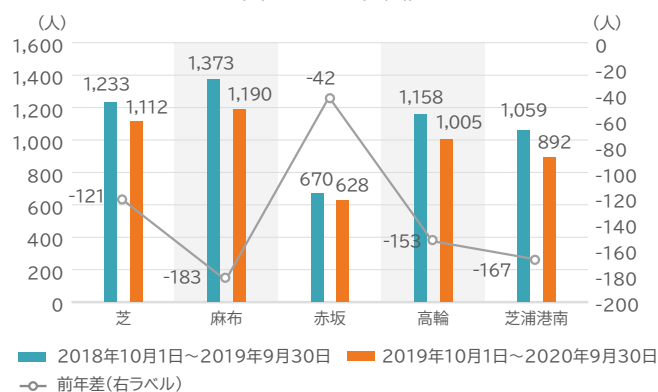
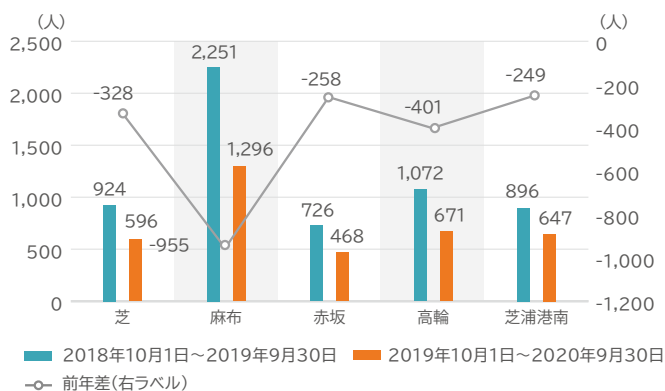


図57 国外



出典：港区「住民基本台帳」

東京都内地域別

- ・都内からの転入者のほとんどは特別区内から転入しており、特別区外の都内から転入は1割に満たない。
- ・特別区内では、都心4区(千代田区、中央区、渋谷区、新宿区)で特別区からの転入全体の3割強を占めている。
- ・都心区からの転入は麻布地区が多いが、他4地区が減少する中で、芝浦港南地区は増加している。

図58 都心区

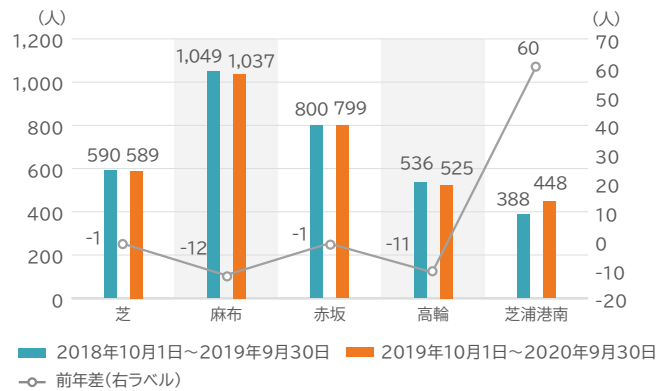


図59 その他特別区

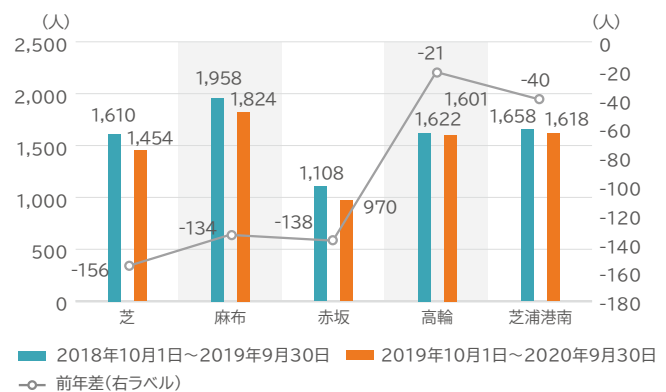
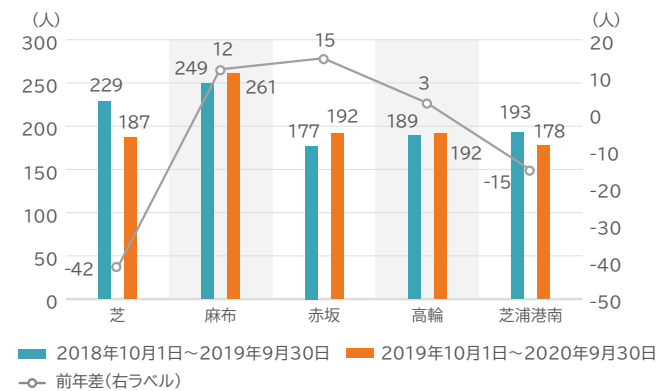


図60 特別区外



出典：港区「住民基本台帳」

区内地域別の定住人口の動向

（１）分析結果の概要

- ・日本人は南麻布、東新橋、海岸、高輪など増加している地域も見られるが、外国人は区全域で減少している。
- ・年齢別に見ると、25～44歳の減少が特徴的で、20代では麻布、30代では南青山、南麻布、白金台、芝、芝浦、海岸などで特に減少している。
- ・0～6歳は赤坂、芝、芝浦、港南などで減少している。
- ・65歳以上では増加している地域も多く、特に75歳以上では南麻布、三田、芝浦、港南などに増加数の大きい地域がみられる。

図61 総人口（対前年同月比増減数、2020年10月1日時点）

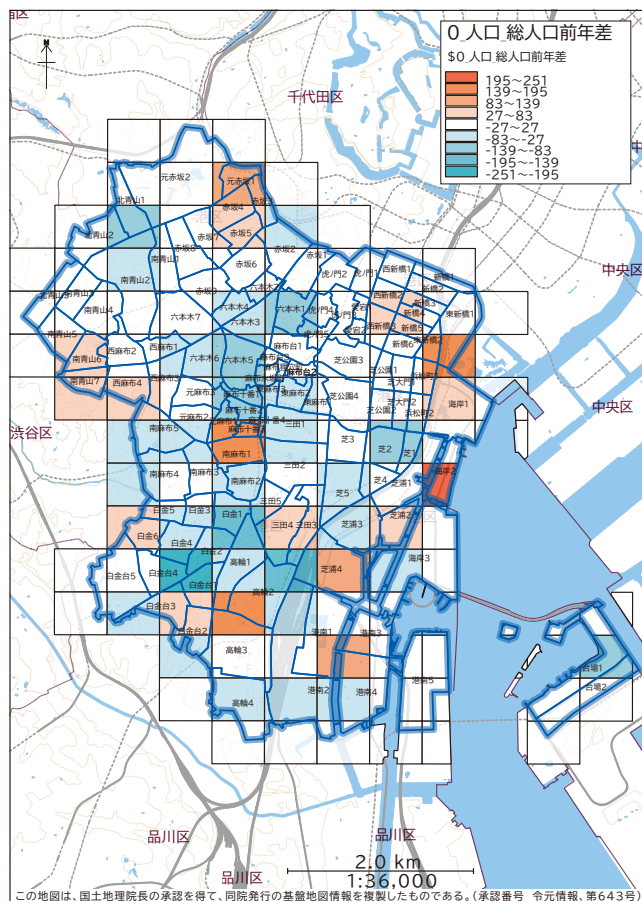
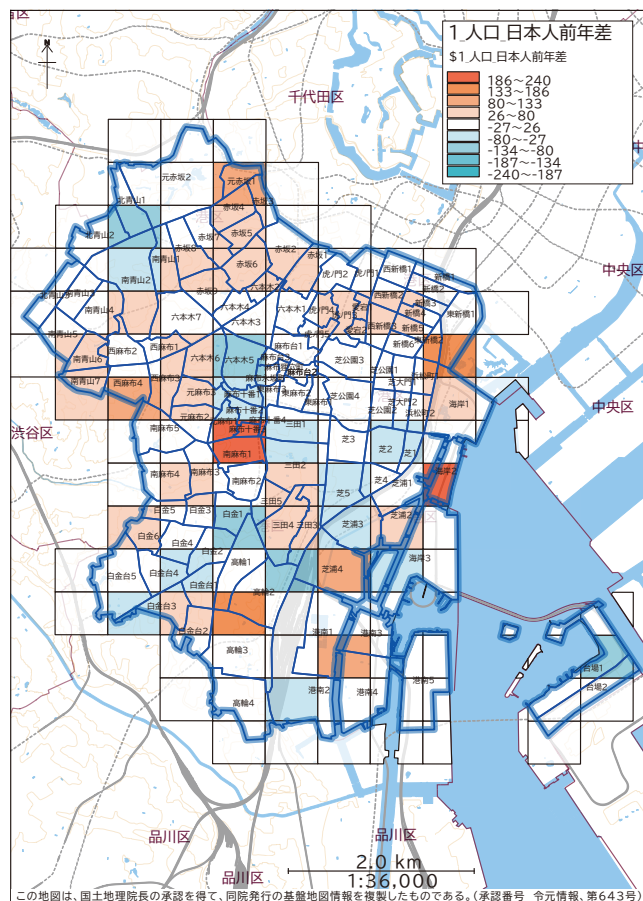


図62 日本人人口(対前年同月比増減数、2020年10月1日時点)



出典：港区「住民基本台帳」

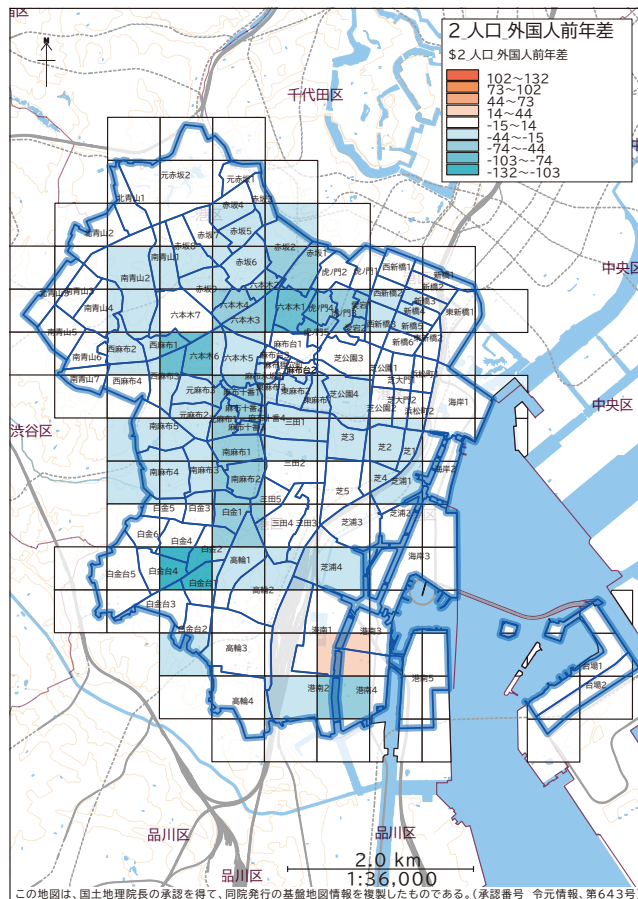
(2) 分析結果の詳細

ア 国籍別定住人口の地域別動向

(ア) 国籍別人口の地域別動向

- ・日本人は、南麻布、東新橋、海岸、高輪などに増加数の大きい地域がみられる一方、北青山、六本木、白金、三田などに減少数の大きい地域がみられる。
- ・外国人は概ね全域にわたり減少しており、白金、白金台、六本木、南麻布などに減少数の大きい地域がみられる。

図63 外国人人口(対前年同月比増減数、2020年10月1日時点)



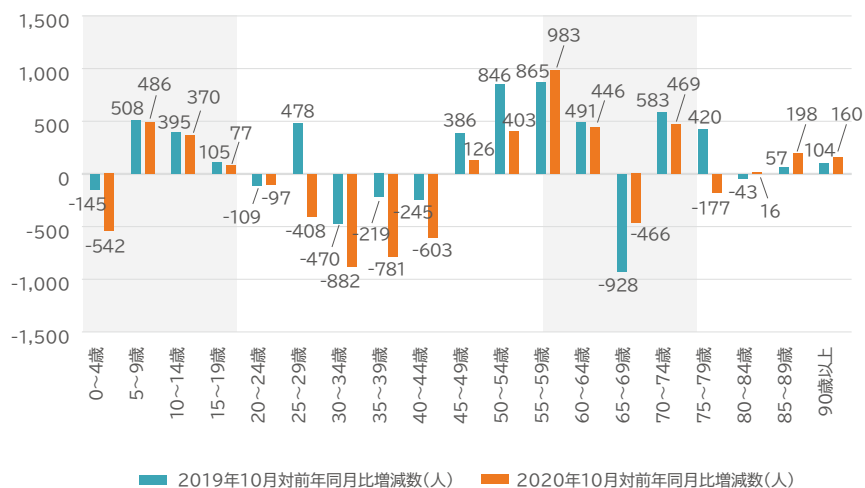
出典：港区「住民基本台帳」

イ 年齢別定住人口の動向

(ア)区全体の年齢別人口の動向

- ・対前年同月比増減数について区全体の動向を見ると、令和2（2020）年10月は前年と比較して25～44歳と0～4歳の増減数が減少しており、子育て世帯が流出していると推定される。一方、65～69歳の転出が緩和されており、コロナ禍によりリタイア層の区外転出が減少したと推定される。

図64 区全体の年齢別定住人口（対前年同月比増減数、2020年10月1日時点）



出典：港区「住民基本台帳」